

# News Letter

## AQSiS

N°05

2024年  
10月



セネガル国看護師・助産師の臨床実習の質向上プロジェクト



## 拡大フェーズを開始しました

2023年12月にプロジェクトで作成・改訂した11の臨地実習の行政文書・教材が「技術承認」されました。承認後は、拡大フェーズとして、プロジェクトの対象州（ダカール州、ティエス州）の全保健医療施設と養成校でこれらの文書の使用を開始します。行政文書・教材が活用されるためには、看護・助産学生を育成し、臨地実習に送り出す養成校の教員と、臨地実習の受け入れ先となる保健医療施設の実習指導者が、文書の使用方法を理解する必要があります。そのため、2024年4月から、対象州の全ての保健医療施設の指導者と養成校の教員に対して、行政文書・教材の理解を深めるための研修を開始しました。研修の主な目的は4つあります。①行政文書・教材を理解し、臨地実習の調整や実施ができる、②学生に教材のオリエンテーションができる、③より良い臨地実習指導ができる、④研修に参加していない保健医療施設や養成校の同僚に研修内容を共有できる。研修を通して、教員と実習指導者がこの4つを実践できるようになることを目指します。

### 1. 研修用ツール作成ワークショップ&編集委員会（2月）

拡大研修は、プロジェクトで作成・改訂した11の臨地実習の行政文書・教材をオリエンテーションする5日間の研修プログラムです。10のモジュールから構成され、内容が多岐に渡るため、限られた期間で参加者が研修内容の理解を深められるように、座学と演習を組み合わせた実践的なものとなっています。

2024年2月12日から16日にかけて、拡大研修用の研修用ツール作成ワークショップを実施しました。ワークショップには、保健省人材局研修課、州保健局、州保健研修センターなど、これまで行政文書・教材の作成/改訂やパイロットフェーズに協力した保健医療施設や養成校の関係者など、計22人が参加しました。ワークショップでは、研修が円滑に実施されるためのツールとして、①講師用ガイドライン、②演習用ノート、③講義プレゼンテーションの3種類の研修用ツール作成に取り組みました。

2023年5月～6月に、パイロットフェーズとして、対象州の一部の養成校と保健医療施設を対象に行政文書・教材の試運用を行いました。パイロットフェーズでは臨地実習指導者が教材を正しく理解していない、教材を使用する看護・助産学生を正しく指導できないという課題があったため、拡大研修では教材を実際に使用しながら、演習を行い、参加者の理解が深まるように工夫しました。また、研修の時間配分も見直し、演習の時間を増やしました。

2月27日-28日には、編集委員会を開き、ワークショップで作成した拡大研修用の研修ツールを見直し、最終化しました。



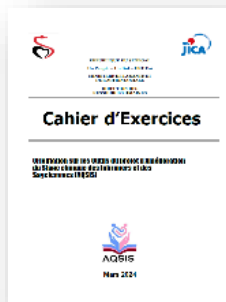
グループワークで作成した研修ツールの共有

### 拡大研修用ツール



#### ① 講師用ガイドライン

実習の準備や各モジュールの目的、進め方、時間配分などを示すガイドライン



#### ② 演習ノート

研修参加者が、グループワーク、ロールプレイ、事例などの演習に使用するノート



#### ③ 講義プレゼンテーション

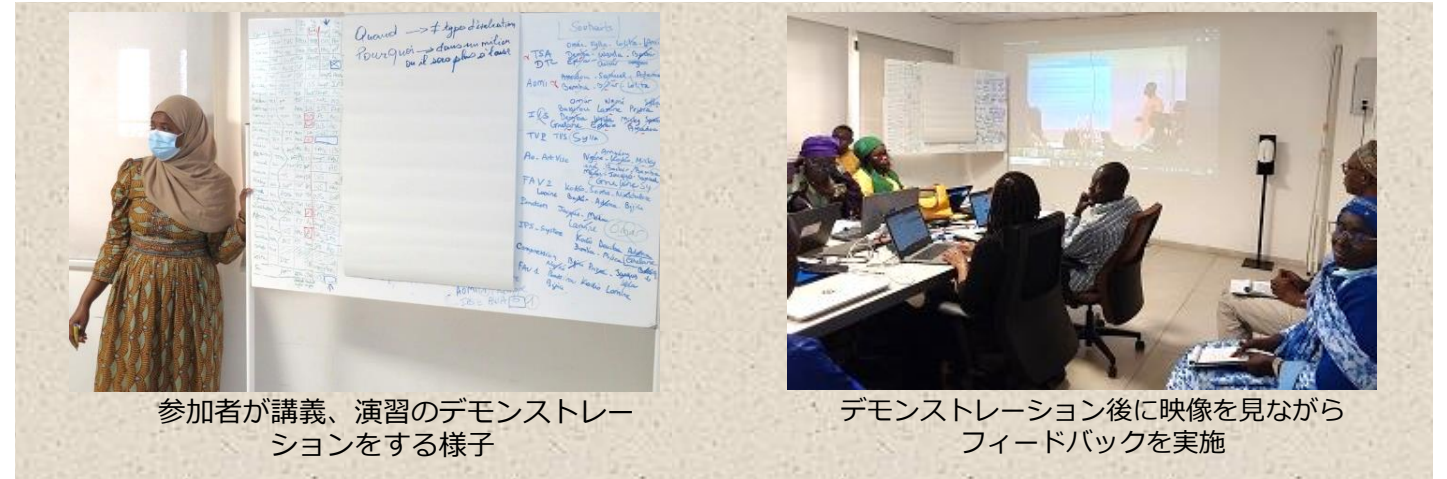
各モジュールの目的、各行政文書・教材の内容や具体的な使用例が示されているプレゼンテーション資料

2.講師養成研修（3月）

研修内容を参加者が適切に理解するためには、講師の質が重要です。また、対象州の全ての保健医療施設と養成校に対して実施するため、研修対象者数はおよそ700人に及びます。研修が円滑に実施されるためには、十分な数の講師が必要です。そのため、研修を担う講師を新たに養成するため、3月に講師養成研修を実施しました。

保健省人材局研修課やティエス州保健研修センター等、これまでプロジェクトの活動に関わってきた中心的なメンバーが講師となり、パイロットフェーズの対象であった保健医療施設の実習指導者や養成校の教員に対して研修を実施しました。講師養成研修により、ダカール州で18人、ティエス州で18人の研修講師が育成されました。

講師養成研修の参加者は、講義の内容を理解するだけでなく、研修をファシリテーションする能力も養う必要があります。そのため、講師養成研修は、講義形式ではなく、参加者自身が講義やグループワークのデモンストレーションを担当できるように工夫しました。デモンストレーション後には、他の参加者と講師から良かった点や改善点をフィードバックシートを用いて評価し、より効果的な実践につながるように工夫しました。また、デモンストレーションの様子を動画で撮影し、立ち振る舞いや参加型のセッションになっているか等、動画を見ながらファシリテーション技術についてフィードバックしました。各セッション後には、振り返りの時間を設け、講義や演習内容に関する質疑応答、参加者同士の意見交換が行われ、研修内容への理解を深めることができました。

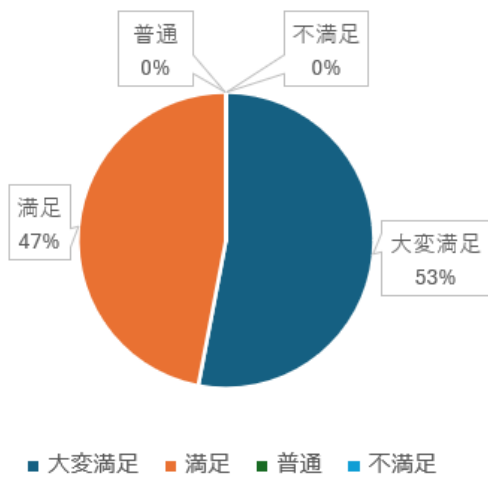


3.拡大研修（4月～8月）

4月から拡大研修を開始しました。対象州の全ての保健医療施設と養成校の関係者が参加できるよう、ダカール州、ティエス州、それぞれで5日間の研修を13回実施しました。

研修中は、講師間で振り返りの会議を毎日開き、時間管理、演習の進め方、研修環境などを協議し、改善しながら実施しました。特に、研修が始まったばかりの4月の時点では、演習の進め方について講師間で理解が異なることがありました。また、講義や演習に時間がかかるモジュールが続く際に、研修が時間内に終わらないなど、時間管理の課題もあがりました。そのため、講師間で協議の場を持ち、時間を要するモジュールは別々の日にするよう、プログラムの見直しを行う等、改善しながら研修を進めました。

各研修で、参加者・講師間でWhatsAppグループを作成し、研修後にも質問や意見交換が継続できるように工夫しました。研修後に、各参加者が研修内容を所属する保健医療施設や養成校の同僚に共有することを研修目的の1つにしており、参加者からは実践の様子が写真やビデオでWhatsappで共有されるなど、研修後も研修内容の定着に役立っています。



ダカール州の参加者の研修満足度

各研修でモジュールごと、および研修全体について、参加者アンケートを実施しました。研修全体の満足度について、参加者のほぼ100%が「とても満足」または「満足」の回答が得られました。行政文書・教材について、「研修に参加していない保健医療施設や養成校の同僚、および学生に指導する自信はあるか」という設問に対し、全ての文書に対して80%以上の参加者が「とても自信がある」または「自信がある」との回答結果でした。一方、ポートフォリオ、助産師の症例記録など、使用経験がない新しい教材に関しては、「自信がない」という回答が一部みられました。評価結果をもとに、講師たちとプレゼンテーションを見直し、講義や演習時に、より丁寧な説明をすることで、回を追うごとに研修の質が向上するように取り組みました。8月末に全ての研修が完了し、計870人の教員と臨床実習指導者に対して、行政文書・教材の使用方法について研修することができました。



各モジュールの演習内容

|    | 研修モジュール                      | 演習内容                                                             |
|----|------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1  | 実習指導/APC                     | 実習に遅刻してきた学生への対応方法を協議するグループワーク                                    |
| 2  | 実習冊子                         | 教員/指導者が実習冊子を学生にオリエンテーションするロールプレイ                                 |
| 3  | ポートフォリオ                      | 看護学生または助産学生が実習目標や個人目標を記入し、指導者がフィードバックを提供するデモンストレーション             |
| 4  | 評価グリッド                       | 技術の習得が不十分な学生に対する実習の中間評価のグループワーク                                  |
| 5  | 看護記録                         | 事例に基づき、看護記録を記載する演習                                               |
| 6  | 助産師用症例記録                     | 事例に基づき、助産師用症例記録を記載する演習                                           |
| 7  | 病院実習                         | 評価グリッドの演習                                                        |
| 8  | 協議枠組みオリエンテーション<br>ガイドライン     | 臨床実習管理委員会（COGES）のミッション、州協議枠組みとCOGESの関係、持続性を担保するための要素を話し合うグループワーク |
| 9  | 臨地実習管理のためのプロセス<br>および手順マニュアル | 実習準備の手順に関するグループワーク                                               |
| 10 | 医療施設のオリエンテーション<br>冊子         | 学生にオリエンテーション冊子を用いて、保健医療施設の説明をするロールプレイ                            |



【モジュール4】血圧測定の評価の演習をする参加者



【モジュール7】病院実習で、学生の手洗いを観察する参加者

研修講師の声

私たち講師は、行政文書・教材の作成段階のワークショップから参加しているので、主体的に研修を実施することができています。これらの教材が保健医療施設で適切に使われるためにも、養成校の教員として教材の使用方をしっかり理解し、教えられるようにすることが重要です。（アジャラトウ・ンディアルセイエ・ジェンさん / IASS-MDB教員）

臨地実習に関わる保健医療施設や養成校関係者など、全ての関係者が臨地実習の調整方法や使用する教材について同じ理解を持つためには、保健省だけでなく、州や保健区の保健医療施設、養成校を対象とした拡大研修を今後も継続することが必要です。それによって、臨地実習の現場において、行政文書・教材が活用されることにつながります。（アマドゥ・ファール・ローさん/ティエス州保健研修センター教員）

参加者の声

この研修に参加する前は、実習冊子やポートフォリオを使わずに、学生を指導していました。研修を通じて、年次ごとに臨地実習で習得すべき技術が設定されていることを理解しました。また、臨地実習開始直後、中間、終了時の各段階に応じて、学生の技術の定着度合を評価しフィードバックする方法を学びました。（ババカール・ンドゥールさん/ングエグニエヌ保健ポスト長/看護師）

これまで臨地実習生を受け入れたことはありますが、実習目的を確認していなかったですし、指導者の都合にあわせてしまうこともありました。今回の研修を受けたことで、標準化された実習指導や調整方法について知ることができました。また、研修参加者は所属先である保健医療施設や養成校の同僚にも研修内容を共有することができます。臨地実習の質の向上のため、そして臨地実習の調整の仕組みをより良く機能させるために、研修で学んだことを実践していきたいです。（ファトゥ・ロームさん/ ジラ保健ポストの助産師）

研修では、臨地実習で使用する教材の使用法が明確になりました。勤務先である病院に戻ったら学生のポートフォリオと実習冊子の記入について、より丁寧に指導したいです。AQSIGが、標準化された臨地実習の教材を作成したことで、養成校ごとに学生が異なる教材を持参することがなくなり、臨地実習指導者として指導すべきことが明確になりました。今後はより質の高い臨地実習を提供することができます。その結果、学生たちが来年もこの病院で実習したいと思ってくれると思います。（イッサ・テムさん/ IFAMS 看護部長/アルベール・ロワイエの小児外科勤務）

# 2024年1月～6月の活動進捗

## 1.ダカール州協議枠組みの活動

ダカール州で、看護師・助産師の臨地実習体制強化を担う州協議枠組みが設置され、3月に1回目の会議が開催されました。ダカール州知事とダカール州保健局長が議長を務め、保健区、保健医療施設、人材養成校の関係者など約40名が参加しました。会議では、ダカール州の臨地実習の課題や、州協議枠組みの持続性を担保するための戦略などが議論されました。ダカール州保健局長からは、この会議をきっかけにダカール州が最も質の高い臨地実習を目指すといった力強いメッセージが表明され、拡大研修への期待の声も聞かれました。



州副知事を中心に集合写真を撮影

州協議枠組みの中に、実習の事前調査・計画委員会、スーパービジョン・実習指導委員会の2つの委員会が設置されています。5月には、事前調査・計画委員会、スーパービジョン・実習指導委員会の1回目の会議が開催され、計37人が参加しました。事前調査/計画委員会では、保健医療施設の実習環境が適切か、実習目的が達成できるかを確認するなどの事前調査の目的を共有した上で、調査の手法や対象、実施時期などについて協議しました。スーパービジョン/実習指導委員会では、拡大研修後の養成校と保健医療施設へのスーパービジョンの実施方法や日程、スーパービジョンを実施するチームのメンバー構成について協議しました。

## 2.ティエス州協議枠組みの活動



事前調査の現状と対応策を報告する州保健  
研修センター教育部長

ティエス州では、ダカール州よりも一足早く、事前調査・計画委員会の1回目となる会議が昨年実施され、その会議で決定した方法で事前調査に必要な保健医療施設への情報収集を行いました。しかし、情報収集がなかなか進まない状況が続き、2月に2回目となる事前調査・計画委員会の会議を開催しました。ティエス州内で情報収集が順調に進んでいる保健区の好事例を紹介し、調査が進まない保健区の改善を協議しました。また、調査が進まない保健区を訪問し、情報収集の課題や改善点を直接協議しました。引き続き、改善に向けてフォローしていきます。

## 3.他プロジェクトとの連携

看護師・助産師の人材育成に取り組む米国NGOのIntraHealthのClassroom to Care (C2C) プロジェクトと定期的に協議の場を持ち、連携して活動を進めています。1月に、人材局研修課、C2C、AQSiSで調整会合を実施し、活動計画の共有や連携方法について協議し、人材局の2024年の年間活動計画に各プロジェクトの活動が統合されました。JICA「母子保健サービス改善プロジェクトフェーズ3(PRESSMN3)」と連携し、助産師教育の強化を目指しています。1月にPRESSMN3が実施した経験共有会議に参加し、助産師の育成の課題に関してAQSiSプロジェクトとの連携について意見交換を行いました。また、PRESSMN3が実施する助産師の現場でのスーパービジョンの結果を共有してもらい、AQSiSで実施する臨地指導者の研修内容との一貫性を確認しました。



活動の進捗報告をするC2Cプロジェクト

## 2024年7月～2024年12月の活動予定

- ✓ 拡大研修後のスーパービジョン
- ✓ 全国・州レベルの協議の枠組み会議
- ✓ 仏語圏アフリカ諸国との経験共有ワークショップ